

# 故 田村 博 先生を送ることば

モバイル学会副会長 宮尾 克(名古屋大学)

モバイル学会前理事長の田村博先生が去る8月29日午後8時半頃ご逝去されました。享年75歳でした。

先生は2010年2月から病氣ご加療中でしたが、病氣のことよりも、仕事のことを気にかけておられたようです。6月に私と大森正子氏とで、お見舞いに訪れた際も、座長を務められる予定であった Applied Human Factors and Ergonomics 国際会議(7月、フロリダ)に出席したいのだが、行くかどうか決めかねている、とか、2011年の HCHI 2011(フロリダ)の準備もしなければ、とおっしゃっていました。しかしその後まもなく、体調がすぐれず、寝たり起きたりになられたようです。



(シンポジウム「モバイル'10」にて)

田村博先生は1935年4月14日に新潟市で生まれました。1958年に、京都大学工学部電気工学科をご卒業になり、京大のまま1960年に修士課程、1963年に博士課程を修了されて、工学博士の学位を授与されました。同年に、京都大学工学部の助手となり、9月には大阪大学基礎工学部の助手に転出され、翌年、講師、1966年に助教授に昇任されました。22年間、阪大基礎工学部でかなり独立した助教授を務められ、マンマシン・システムから、ヒューマンインタフェースという分野を確立され、我が国のリーダーになっていました。

私が田村博先生にお会いしたのも、阪大の基礎工学部でした。当時、ディスプレイを見ている人間の眼を研究していた私は、眼精疲労により、水晶体の調節微動が低周波化するのではないかと、という仮説で測定機器の工夫と実験をおこなっていました。先生から、的確なアドバイスをいただきました。まもなく1987年に、私はカリフォルニア大学バークリー校の Stark 教授のもとに留学したのですが、これも、先生のご紹介状があつてはじめて実現したものです。先生は Stark 教授と親交を深めていらっしゃいました。私のことを、過分に評価して紹介していただきました。先生をバークリーでお迎えしたことも楽しい思い出です。このころ、先生は、伊藤敏行氏や美記陽之介氏らを育てられました。

1988年に先生は京都工芸繊維大学工学部教授に就任されました。ここで、黒川隆夫先生らとご一緒に研究され、大きな「田村シュレ(学派)」を形成されました。渋谷雄先生や森本一成先生、田中成人氏(オムロンソフトウェア)らの優秀な多数の研究者を養成されました。また、1998年には、日本人間工学会モバイル人間工学研究部会を立ち上げられ、シンポジウム「ケータイ・カーナビの利用性と人間工学」を毎年、開催されました。1999年に京都工繊大を定年退官され、名誉教授となりましたが、ご自身で神戸に田村ヒューマンインタフェース研究所を設立されました。

2001年には、広島国際大学人間環境学部の特任教授に就任され、学科長なども歴任されました。京都時代からの教え子の丁井雅美先生らと、モバイル学会の会長・事務局を担当されました。2005年に広島国際大学を退任された後には、神戸の研究所をモバイル学会の本部として提供されました。2007年にはモバイル人間工学研究部会の成果を継承し、NPO法人モバイル学会を設立され、理事長に就任されました。そして昨年3月に名古屋大学で開催した本学会で、ご子息たち、お弟子さんたちに囲まれて、「左右手上下動作における NIRS 高速成分のイベント関連解析」と題してご講演になったのが先生の最後の学会になってしまいました。

田村博先生は、「使いやすく、使って便利だけ」でなく、「安全性が確保」され、「使わない人にも喜ばれ、使わないときにも邪魔にならない」機器をヒューマンインタフェースの理想のものと考え、技術と社会の関係をリードされてきました。

田村博先生が先鞭をつけた数ある学会・研究会の中でも、モバイル学会こそ、晩年の先生がもっとも愛した学会だったでしょう。本学会をいっそう発展させ、田村博先生のご冥福をお祈りしましょう。